

在セネガル日本国大使館月報

2023年4月

主な出来事

セネガル

(内政)

- 22日、サル大統領はラジオ局 Rfm のインタビューを受け、三選出馬について「時が来たら話をするが、まだその時ではない」との発言を行った。ほか、野党との政治対話の可能性、与党内の政局について語った。(24日 Le Soleil)

(外政)

- 13日、サル大統領は、第3回セネガル・ポルトガル合同委員会のためダカールに来訪したクラヴィーニョ・ポルトガル外務大臣と会談し、両国の関係強化について協議した。(13日 大統領府 Twitter)
- 12日、在セネガル中国大使館は、ジャムナジョ小児病院に対し、2,800万FCFA(約560万円)相当の医療機材を供与した。(13日 Le Soleil)

(日本関係)

- 29日、日本の内閣府は、令和5年度春の外国人勲章受章者を発表し、アワ・マリー・コル・セック国務大臣が旭日重光章を受賞した。(5月3日 Le Soleil)

(社会)

- 28日、保健省はダカール市内のダラル・ジャム病院において22日に死亡した患者からクリミア・コンゴ出血熱ウイルスが検出されたとの発表を行った。接触者87名(主に医療従事者)の検査を行ったところ、全員陰性との結果が出た。(5月2日 L'Observateur)

ガーボベルデ

- 27-28日、ボアヴィシュタ島でカーボベルデ支援国会合が開催され、ギニアビサウ首相、アンゴラ経済調整大臣、ポルトガル財務閣外相、国際機関のハイレベル等が出席した。持続的開発戦略2022-2026の実施指針が採択され、2026年にカーボベルデは先進的な民主主義、ダイナミックな経済、デジタル経済と多様化、ECOWASへの包摂的統合を実現することが確認された。(30日 政府Facebook)

ガンビア

- 17日、地方自治体選挙が実施され、選挙監視委員会及び市民社会団体は、選挙プロセスは平和裏に実施されたとの評価を下した。結果は、与党国民党が多数の自治体で勝利した。(17日、18日 The Point)

ギニアビサウ

- エンバロ大統領は、ムニシュ国民教育大臣を指示違反の理由で罷免し、ブアロ・ダ・コシュタ計画・地域統合閣外大臣を同職に任命した。(13日 O Democrata)
- 17日、エンバロ大統領は、ギニアビサウを訪問中のカガメ・ルワンダ大統領と会談し、通商、観光、教育分野での両国関係の強化について共同宣言を発表した。(18日 O Democrata)

・閣僚の官職名は適宜省略した形とする。(例:タル外務・在外自国民大臣→タル外務大臣など)

セネガル

(内政)

内政一般

- 4日、セネガル独立記念式典が全土で開催された。それに先立ち3日、サル大統領は国民向け演説を行い、国家の繁栄と政治社会的安定のため諸団体の融和を呼びかけた。(5日 Le Soleil)
- 6日、政府は、セネガル軍参謀総長に、現職のワッド将軍に代わりシセ大統領付特別参謀長を任命することを閣議決定した。(7日 Le Soleil)
- 16日、サル大統領の三選に反対すべく、野党、野党支持団体、市民社会組織、労働組合、人権団体等は、反対運動組織を結成した。(17日 APS)
- ダカール控訴院は、17日に予定されていたソコPASTEF党首の控訴審を5月8日に延期することを決定した。同党首は3月30日、第一審で2か月の禁固刑(執行猶予付)と2億FCFAの罰金刑を言い渡されていた。(17日 APS)
- 22日、サル大統領はラジオ局 Rfm のインタビューを受け、三選出馬について「時が来たら話をするが、まだその時ではない」との発言を行った。ほか、野党との政治対話の可能性、与党内の政局について語った。(24日 Le Soleil)
- 22日、ラマダン明け祝祭において、ダカール大モスクのサンプ・イマームがイスラム教徒に向け、平静を保ち、暴力行為に走らないよう注意を呼びかけた。また、サル大統領も同地で演説し、イスラム教の価値を遵守するよう訴えかけた。(24日 Le Soleil)
- 24日、サル大統領は、セネガル軍のファル大佐(軍医)を女性初の将軍に昇級させた。(26日 Le Soleil)

(外政)

二国間・多国間関係

- 6日、ジョップ国民議会議長は、EU 議会の外交委員会所属議員と会談し、民主主義と法治国家を強化していくための協力について協議した。(7日 Le Soleil)
- 7日、サル大統領は米軍幹部の表敬を受け、バーモント州からの勲章を授与された。(7日 大統領府 Twitter)
- 13日、サル大統領は、第3回セネガル・ポルトガル合同委員会のためダカールに来訪したクラヴィーニョ・ポルトガル外務大臣と会談し、両国の関係強化について協議した。(13日 大統領府 Twitter)
- 14日、マクロン仏大統領は、第二次世界大戦中仏軍に従軍した9名のセネガル狙撃兵の生存者と面会し、三色旗の下に戦ったことに対して謝意を表明した。彼らは28日にセネガルに帰国することとなっている。(15日 Le Soleil)
- 16日、サル大統領はラマダン期間中にメッカの巡礼を行うため、サウジアラビア・ジェッダに到着した。(17日 L' Observateur)
- 25日、サル大統領は、タンガラ・ガンビア外務大臣を迎え、近くに予定されている両大統領の協議について話し合い、同大臣はAU議長としてのサル大統領の功績に賛辞を送った。(28日 Le Soleil)
- 27-30日、チェコ共和国の副首相及び内務大臣はセネガルを訪問し、サル大統領と両国間関係の拡大について意見交換した。(29日 Le Soleil)
- 28日、サル大統領は、アンリ・ハイチ首相と電話会談し、同国政府の反社会勢力との闘いを支援すべ

く国連に働きかけていくことを語った。(28日 大統領 Twitter)

国際情勢・国連機関支援等

- 6日、政府のデジタル経済促進事業のため、世銀から910億 FCFA(約18億円)の融資を受けることが決定し、三輪世銀セネガル地域事務所長とバ財務大臣が合意書に署名した。(7日 Le Soleil)
- 12日、在セネガル中国大使館は、ジャムナジョ小児病院に対し、2,800万FCFA(約560万円)相当の医療機材を供与した。(13日 Le Soleil)
- バ財務大臣とサル経済大臣は、10日に始まったIMF及び世界銀行の年次総会に参加すべくワシントンに到着した。(12日 APS)

日本関連

- 26日、ダンスフェスティバルに参加するためダカールを訪問中の日本のコンテンポラリーダンスグループ「バオバブ」は、駐セネガル日本大使公邸においてダンスを披露した。(29日 Le Soleil)
- 29日、日本の内閣府は、令和5年度春の外国人勲章受章者を発表し、アワ・マリー・コル・セック国務大臣が旭日重光章を受賞した。(5月3日 Le Soleil)

(経済)

経済一般

- 西アフリカ経済通貨同盟(UEMOA)は、2023年2月の消費者物価指数を公表し、セネガルの同月の物価が前月比で0.4%上昇したことを明らかにした。前年同月比で、生鮮食品は13.2%、エネルギーは18.2%、両者を除く品目は6.1%増となる。(6日 APS)
- 27日、バ首相は2023-2024年の農繁期は、国家食料主権戦略の実施開始と重なることから、生産記録を打ち立てるべく政府が19の施策に対し、1,000億 FCFA(約200億円)を支出することを公表した。(27日 APS)

(社会)

- 28日、保健省はダカール市内のダラル・ジャム病院において22日に死亡した患者からクリミア・コンゴ出血熱ウイルスが検出されたとの発表を行った。接触者87名(主に医療従事者)の検査を行ったところ、全員陰性との結果が出た。(5月2日 L'Observateur)
- 28日、9名の元セネガル狙撃兵がセネガルに帰国し、サル大統領と及びタル外務大臣と面談した。(28日 Le Soleil)

(文化・スポーツ)

- 6日、国際サッカー連盟は FIFA ランキングを公表し、セネガルは18位にランクインした(日本は20位)。(7日 Sud Quotidien)
- 18日、セネガルの歴史学者らで構成される委員会は、「セネガル全史:起源から今日まで」と題する14巻の歴史書を刊行し、サル大統領は前文で現在と将来の課題に取り組むセネガル人を作り上げる作品であると評した。(19日 Le Quotidien)
- 25日、アフリカとヨーロッパ38か国の美術館長約60名がダカールに集まる国際フォーラムが開会された。同フォーラムの目的は、美術館の世界的ネットワークを形成することとされている。(25日 APS)

カーボベルデ

- 13日、政府は27-28日に開催される国際パートナーシップ会合において、2022-2026持続可能な

開発戦略に関する28の事業に対し、200万ユーロの資金をパートナー国に要請することを発表した。(13日 Balai)

- 13日、政府は160万ユーロをかけてプライア中央刑務所を増築することを公表した。(13日 LUSA)
- 14-18日、ポルトガル海軍の潜水艦がミンデロ港に寄港した。同艦は、軍事・外交協力関係を強化すべくモロッコ、アンゴラ、南アフリカ、ブラジルに寄港する。(18日 Balai)
- 16日、コレイア・エ・シルヴァ首相(与党MPDの党首)は党首選を経て再任された。(16日 Asemana)
- 16日、政府は交通需要を満たす国営会社を通じて航空機を取得することを閣議決定した。(Mindel Insite)
- 16日、コレイア財務大臣は2022年の経済成長率がIMFの予想値を超え、公的債務の状況も改善されるだろうとの発言を行った。(16日 LUSA)
- 18日、ネーヴェシュ大統領は、ポルトガルで開催されるエネルギー・環境サミットに出席すべく同国へ出発した。(18日 Balai)
- 27-28日、ボアヴィンシュタ島でカーボベルデ支援国会合が開催され、ギニアビサウ首相、アンゴラ経済調整大臣、ポルトガル財務閣外相、国際機関のハイレベル等が出席した。持続的開発戦略2022-2026の実施指針が採択され、2026年にカーボベルデは先進的な民主主義、ダイナミックな経済、デジタル経済と多様化、ECOWASへの包摂的統合を実現することが確認された。(30日 政府 Facebook)
- 29-30日、パリにおいて在外カーボベルデ人を対象に、同国への投資促進マッチング会が開催される。目的は同国の投資機会を投資家に紹介し、海外の投資家と国内企業を繋げ、投資を促進することとされている。(23日 Expresso das Ilhas)
- 民間航空局の発表により、3月のカーボベルデ国内の全空港利用者数が約22万人に達し、前年同月比で33%増となったことが明らかとなった。(25日 LUSA)
- 在外カーボベルデ人による本国送金が増え、新型コロナウイルス発生直後に比べ約2倍になった。政府はヨーロッパ及び米国に居住する同国人を150万人以上と推計しており、同国の財政は在外カーボベルデ人の送金に大きく依存している。(26日 Balai)
- 国家統計局は、今年の第1四半期の同国の輸出入額が、前年同期比でそれぞれ70.3%、25%増加したことを公表した。(27日 mindel insite)

ガンビア

- 4-5日、欧州議会の外交委員会に属する議員団がガンビアを訪問し、政府・議会・市民社会の主要人物と意見交換を行った。マカリストー団長は、民主主義の強化、社会経済的発展のための協力を進めていく旨述べた。(6日 The Point)
- 4日、ジン駐ガンビア中国大使は、2023年のガンビア大学から中国に留学するための奨学金受給者30名を選出するとともに、大学への機材供与を行った。同奨学金プログラムは2017年に始まり、ガンビア大学の学生と教員が対象となる。学費は全額免除。(6日 The Point)
- 4日、タンガラ外務大臣は、EU 議会の外交委員会所属議員団と会談し、移民問題、ガンビアの外交政策等について意見交換を行った。(18日 The Point)
- ガンビア中央銀行は、2023年の経済成長率が5.6%に達するとの見通しを示した。2022年は推定

で5.2%の成長。(12日 The Point)

- 10日、ジュフ通商大臣はダカールを訪問し、フォファナ商業大臣と二国間貿易、三者間協力の枠組み構築、カシューナッツ等の農産物取引、共同貿易委員会会合の設立等について協議した。(14日 The Point)
- 17日、地方自治体選挙が実施され、選挙監視委員会及び市民社会団体は、選挙プロセスは平和裏に実施されたとの評価を下した。結果は、与党国民党が多数の自治体で勝利した。(17日、18日 The Point)
- クロマー駐ガンビア米国大使は、ガンビアの民主主義の進展により同国が米・アフリカ民主主義サミットに選抜されたとの見解を示し、今後も各省が同国に投資を続けていこうとの発言を行った。(20日 The Point)
- 27日、世界税関機構の西部・中部アフリカ支部は、バンジュールにおいて国際会議を開催し、地域の資金調達と会計監査について協議した。(28日 The Point)

ギニアビサウ

- 5日、ギニアビサウで無料の医療サービスの提供を行っている中国の医療団は、北部カシュー州カンシュンゴ地域病院に対し医療機材を供与した。(13日 O Democrata)
- エンバロ大統領は、ムニシュ国民教育大臣を指示違反の理由で罷免し、ブアロ・ダ・コシュタ計画・地域統合閣外大臣を同職に任命した。(13日 O Democrata)
- 12日、ダ・シルヴァ交通・通信大臣は、カナダ企業の協力を得てギニアビサウ航空会社を設立することを発表した。構想では初期段階でカーボベルデ、コートジボワール、セネガル、ガンビア、リベリア、シエラレオネで運航し、将来的にリスボン、リオデジャネイロ、ローマに拡大することを目指す。(13日 Balai)
- 13日、IMFはサブサハラアフリカの経済レポートを公表し、ギニアビサウの2023年、2024年の経済成長率がそれぞれ4.5%、5%に達するとの見通しを示した。(13日 O Democrata)
- 17日、エンバロ大統領は、ギニアビサウを訪問中のカガメルワンダ大統領と会談し、通商、観光、教育分野での両国関係の強化について共同宣言を発表した。(18日 O Democrata)
- 21日、在ギニアビサウ中国大使館は、ビサウ市で花卉園芸に従事する女性グループに対し、電動ポンプを供与した。式典にはセ中国大使及びエボラ女性・家族大臣が出席した。(21日 O Democrata)
- 25日、WFPは食料状況調査の結果を発表し、約22%の家庭、38万人が食料上の不安定状況に置かれており、うち8,700人が緊急援助を必要としているとした。(25日 O Democrata)
- 西アフリカ反資金洗浄(マネーロンダリング)対策組織は、近年ギニアビサウがラテンアメリカからヨーロッパへのコカインの中継地として利用されていることに触れ、経済犯罪に対する政府の取り組みへの支援策について述べた。(26日 O Democrata)
- ギニアビサウ政府は、6月4日に開催される議会選挙の必要資金の70%を準備しているものの、さらに3.5億米ドルの資金が必要となるため、国際社会からの支援に対する期待を示した。(28日 LUSA)

(注) 本月報は、セネガル、カーボベルデ、ガンビア、ギニアビサウの報道を当館限りでまとめたもので

す。記事内容は、日本政府やセネガル政府の公式見解と異なる場合がありますが、当館では文責は負いかねますのでご了承下さい。

(了)